

地域防災リーダーアドバンストコース（救助コース）

鶴見消防署 研修テキスト



地域防災リーダー研修テキスト実践編をもとに市民の方への防災訓練の指導ポイントとして作成した資料です。

アドバンストコースにおいて研修した内容ですので、今後の指導にご活用ください。

① 閉じ込められた人の救出

- (1) 閉じ込められた人を見つけたら、周囲の安全を確認しながら近づき、声をかけ、意識状態やケガ、挟まれなどを確認します。
- (2) 救助活動に必要なジャッキやボールなどの資器材を準備する。
- (3) リーダーは、常に救助者と閉じ込められた人の周囲の状況に気を配りながら救助活動を実施する。



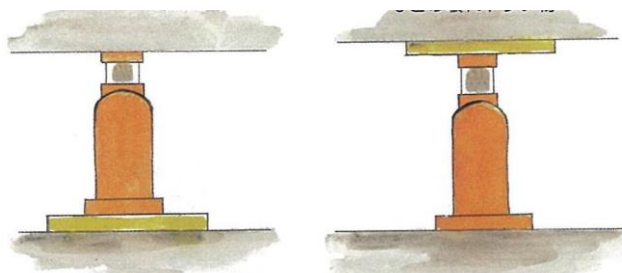
《指導のポイント》

- 安全を優先して行います。
特に救出活動中は、全員の目が救出場所の一点に集中しがちですので、リーダーは全体に注意を払い、災害現場の安全管理を実施しましょう。
- 閉じ込められている人には、常に声をかけるなど、意識状態に注意を払う。
- すき間を広げる時は、閉じ込められている人が痛みを伴っていないかを確認しながら行う。
- ジャッキやボールなどですき間を広げる度に、角材などを入れて、安全対策を講じる。
- すき間がせまく、ジャッキが入らない時は、ボールや丈夫な棒状の物と角材などを使用してテコの原理ですき



間を広げてからジャッキを入れる。

- すき間が広く、ジャッキが届かない時はしっかりとした板や角材などを使用してかさ上げします。



※ジャッキやバールは、収容避難所や可搬式ポンプ庫等に収納されていますが、車に積載されているジャッキを活用するなど、身の回りにある物で代用できる器材を常に考えておくことが大切です。

② 高所からの救出

- (1) 窓にはしごをかけ、はしごの下部をしっかりと押さえる。さらにはしごの上部と手すりなどをロープで固定する。
- (2) 要救助者が歩行できる場合は自力ではしごを降りてもらうが、高齢者などの場合は腰にロープを結び（もやい結びを用いる）、降りる速度に合わせ、上の人が少しずつロープを緩め、転落しないようにする。



《指導のポイント》

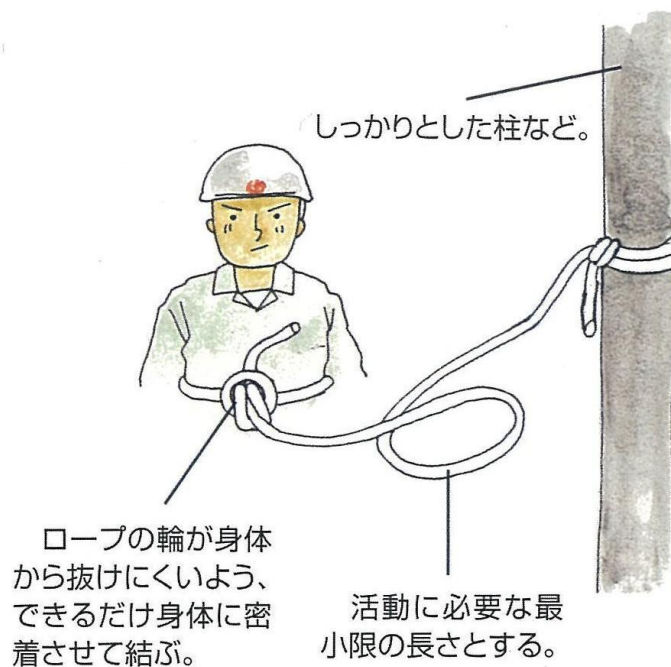
- 高所で救助を行う時は、自身をしっかりとした柱などに転落防止の確保ロープを設定してから活動する。
- 要救助者への確保ロープは、たるまないようにゆっくりと緩める。
- はしごを確保する時は落下物でケガをする危険があるので、



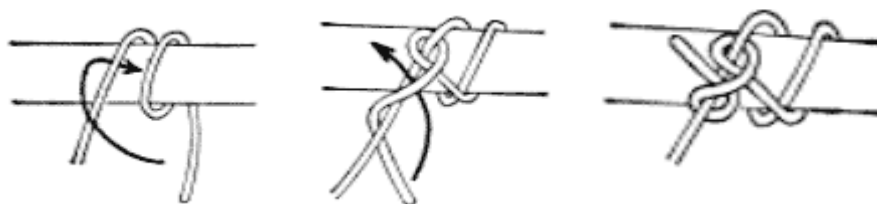
上を向かない。

《確保の要領》

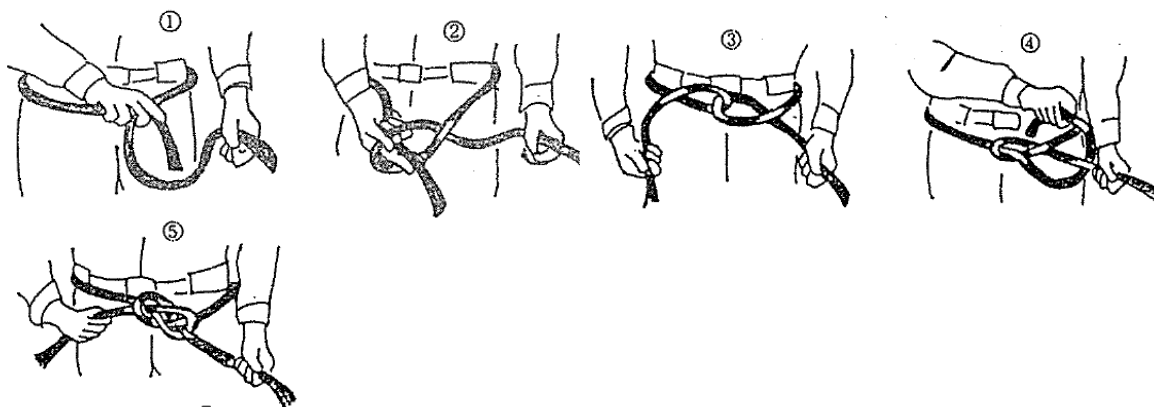
1 高所確保



○ 支持物にロープを結ぶ（ふたまわりふた結び）



○ 体にロープを結ぶ（片手による身体もやい）



2 腰確保

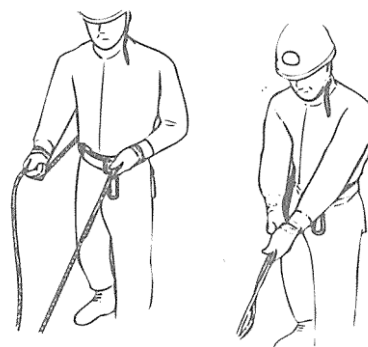
(1) 姿勢

- ア ロープを後ろから腰にまわし、右手で握って右腹部におき、左手は伸ばして要救助者側のロープを握る。
- イ 上体は、要救助者側に正対する。
- ウ 足の位置は、左足を一步前に踏み出し、膝を軽く伸ばし弾力性を持たせる。



(2) 確保ロープの操作方法

- ア 右手は右腹部付近、左手は軽く伸ばして確保ロープを握る。
- イ 左手を引きつけると同時に右手は前に水平に伸ばす。
- ウ 右手で十分ブレーキをかけた状態で左手を緩め、ロープに添って前に出し、左手でロープを束ねて握る。
- エ 右手をゆるめてロープに添って右腹部付近に戻し、左手のロープ(右手側)1本を離す。



③ 搬送

1 担架を使わず搬送する方法



- ① (頭側) 上体を起こして両手で要救助者の前腕を握る。
- ② (足側) 両足を重ねるように揃えて抱える。
- ③ 両方の準備が出来たら、後ろ側の人が発令をかけ、抱え上げる。

- ④ 降ろす時も後ろ側の方が号令をかけ、降ろす。

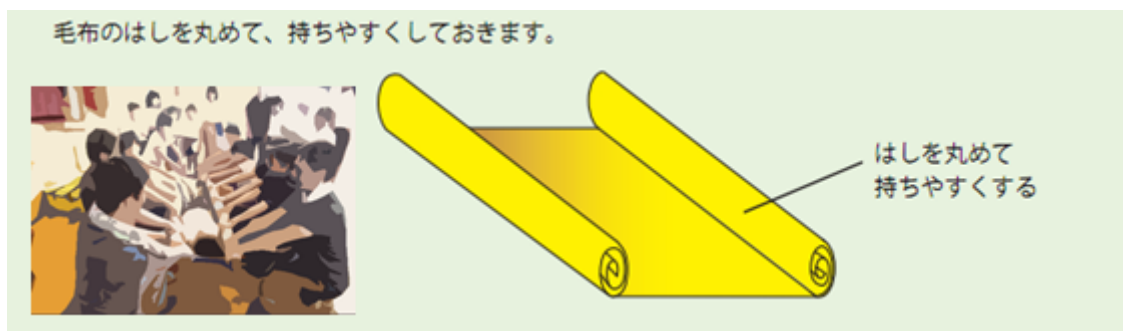


搬送の様子

2 毛布を利用しての搬送

※力の弱い参加者（女性や高齢の方など）は、周囲に呼びかけ、十分な人数で協力し搬送する。

- ① 毛布を広げて置きます。（ブルーシートも可能）
- ② 毛布の両端（縦）を中心に向かって固く巻き、中央部は傷病者を収容する幅だけ残します。（50cm で充分）
- ③ 4人以上で丸めた毛布の端を持って搬送します。
（中央がたわむので6人が理想的）



《指導のポイント》

- 階段などの傾斜のある所では足側から運び、できるだけ水平で頭部が下がらないように注意する。
- 要救助者の動揺を与えないように注意して運ぶ。
- 足元に障害物がある時には、つまずき、滑り、踏み外しに注意する。
- 進行方向側の方は、前方の障害物に注意し、後ろ側の方は要救助者の状態を常に注意します。

